

自 己 評 価 書  
(平成25年度)

平成26年3月

鳴門教育大学附属特別支援学校

## I 学校の現況及び目的

### 1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属特別支援学校
- (2) 所在地 徳島市上吉野町2丁目1番地
- (3) 学級等の構成  
小学部 3学級(複式)  
中学部 3学級  
高等部 3学級
- (4) 児童生徒数及び教員数(平成25年5月1日)  
小学部 18人, 中学部 18人, 高等部 24人  
児童生徒数 60人  
教員数 29人(正規教員)

### 2 目的

#### (1) 目的・使命

本校の目的は、附属特別支援学校校則第1条において「知的障害及び自閉症の児童生徒に対して、小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を施し、あわせて障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける」と定めるとともに、同条第2項では「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の要請に応じて、幼児、児童又は生徒の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努める」と定めている。

また、校則第1条には「鳴門教育大学(以下「本学」という。)における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属特別支援学校として、次のような使命をもった学校でもある。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究学校としての使命
- ②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命
- ④附属学校としての実践的研究の成果を活かし、地域における特別支援教育のセンター的役

#### 割を發揮する使命

#### (2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている目的の達成のため、学校として、また各学部としてそれぞれ次のような教育目標を掲げている。

- ①明るい性格と豊かな人間性を育てる。
- ②日常生活に必要な習慣や態度を養う。
- ③生活を高めるため、知識・技能・態度を育てる。
- ④強靱なからだと意志を養う。
- ⑤集団生活への適応能力を育てる。

#### (小学部)

- ①豊かな心、じょうぶな身体を育てる。
- ②日常の基本的な生活習慣を身につける。
- ③興味関心を広げ、自ら取り組む態度を育てる。
- ④人とかかわる基礎的な力を育て、集団での活動に参加できる態度を育てる。

#### (中学部)

- ①身体の健康及び思春期の不安定さに配慮しつつ、生徒自身が心理的に安定した状態で安全な生活を送る。
- ②自分や他者にとってよりよい結果を得るために、行動する。
- ③認知・学習、運動・体力のそれぞれの知識や技能の向上を図るとともに、場面や状況に合わせた態度の育成を図る。
- ④個々の「参加」の質を高めるために、学習で身につけた知識・技能・態度を実際の家庭生活・地域生活・労働生活に發揮する。

#### (高等部)

自立した社会生活に必要な知識や技能を習得し、家庭生活や職業生活の中での実践力を身につける。

- ①心理的な安定を図るとともに、働くための健康な身体と青年期の豊かな心情を育てる。
- ②主体的に働く意欲や態度、集中力を養う。
- ③将来の社会生活に必要な言語・数量に関する基礎的学力および生活技能を養う。
- ④人と関わる中で社会性を身につけ、自ら生

活を楽しむことができる力を養う。本校では、学校及び各学部の教育目標に基づき、それぞれ次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

○明るく、仲よくできる子ども

○じょうぶで、元気な子ども

○よく働く子ども

○力いっぱいがんばる子ども

(小学部)

○心と身体の健康向上に取り組むことができる児童

○身の回りのことが、必要な支援を得てできる児童

○学習活動に興味を持ち、意欲的に取り組むことができる児童

○人とのかかわりを大切にし、集団活動に進んで参加することができる児童

(中学部)

○健康な身体と健全な心を持つ生徒

○周りの人に自分から意思を伝え、係わりあえる生徒

○学びや体験をとおして「分かる」「できる」「こうすればいい」ことを自分から見つけられる生徒

○自らの興味や関心、楽しみを広げ、様々な生活場面に参加できる生徒

(高等部)

○身体と心の健康に気をつけて、人や自然を愛することができる生徒

○進んで働こうとする意欲やチャレンジ精神を持つことができる生徒

○自分でできることは自分でして、できないところは支援を求めることができる生徒

○マナーやルールを守って積極的に社会参加をしようとする生徒

## 平成25年度重点課題

①鳴門教育大学及び研究機関と連携した教育研究により、教員の授業力向上を図る。

②保護者との連携強化を図る。

③危機管理対策の充実を行う。

④特別支援教育のセンター的機能の強化を図る。

## 平成25年度学校評価シート

学部・部	小学部
重点課題	「わくわくする授業づくり」
重点目標	①学習指導略案を作成し、授業担当者間での話し合いを充実させての授業づくりを行う。 ②支援ケース会議を定期的に行い、児童への指導の方向性の共通理解を図り、「わくわくする授業」づくりに活かす。

達成の 具体的な評価指標	① 各領域・教科(体育・音楽・図工・自立活動・遊びの指導)において年間、学習指導略案の作成を4回以上。 ②-1 小学部会にて、支援ケース会議を年間5回以上。 ②-2 小学部職員に対してアンケートを実施し、「ケース会議を「わくわくする授業」に活かすことができた」が80%以上。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	1 学部会にて指導略案の作成についての共通理解を図る。 2 適宜、学習指導略案の提出期限を設け、授業検討会を行う。 3 学部会の中で児童に関する支援ケース会議を行う。

実施状況	1 学習指導略案を各領域・教科(体育13回・音楽9回・図工15回・自立活動8回・遊びの指導11回)それぞれ、執筆し授業に取り組むことができた。 2 設定しての学部ケース会議及び学部会の中で児童の情報交換として実施することができた。 3 ケース会議及び児童の情報交換を行う事で、小学部の教員の77%が「わくわくする授業」に活かすことができたとの結果が出た。								
評価指標の達成度 及び 成果	1及び2の項目については、達成したが3の項目については達成することができなかった。学習指導略案の作成とケース会議、児童の情報交換を充実させることで、授業の共通理解を図ることができた。								
総合評価 (○で囲む)	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">✖</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">○ B</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">€</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">⊕</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">80%以上</td> <td style="text-align: center;">70~79%</td> <td style="text-align: center;">50~69%</td> <td style="text-align: center;">49%以下</td> </tr> </table>	✖	○ B	€	⊕	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
✖	○ B	€	⊕						
80%以上	70~79%	50~69%	49%以下						
評価根拠	評価指標1及び2の項目が達成、3がやや目標に到達しなかったためB評価とした。								
次年度の 課題	教育課程の検討及び教員の授業力向上を主眼として取り組んで行くことが課題といえる。教育課程と授業の構想や展開等、授業そのものに対する知識や実践力を向上させることを今後の課題として設定したい。								

# 平成25年度学校評価シート

学部・部	中学部
重点課題	「わくわくする授業づくり」に向けた学部の指導体制整備（3年次）
重点目標	①「わくわくする授業づくり」の基盤となる生徒の好子（活動への意欲を高める要素）を検討する。 ②「わくわくする授業」のモデルとなる授業コンテンツ（創作内容）を開発する。

達成の具体的な評価指標	①-1 生徒の好子査定ミーティングが行われ、生徒18名の好子（物や活動、人、言葉等の要素）が1～5位程度まで分かる。いつ、どんな場面で意欲が高まりやすいかを記載した一覧が作成される。個人の好子とともに学部全体の好子の傾向がデータとして出され、分析結果が各教員に共通理解される。 ①-2 自立活動の時間における指導、各教科等（未定）において、生徒の好子を盛り込んだ授業改善が行われ、事前から事後に向けた改善点が明らかにされる。（教員9名全員が事例研究を行う。例：集団活動で好子を盛り込んで教員の発問に注意を促すには〇〇が必要等） ② 1, 2に基づいて、「わくわくする授業づくり」の結果（主に教員の指導力が向上した点）が明らかにされる。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	1 生徒の活動意欲が高まった場面を各教員が付せんに書いて出し合い、KJ法を参照して特色を見い出す。その特色を好子として記録し、個別の指導計画のなかで引き継ぐ体制を検討する。 2 平成24年度に作成した「わくわくシート」や他の教員の助言に基づき、授業改善を行う。研究部が提案する日程に沿って実施する。 3 過去3年の研究とのつながりを基盤とし、「教員の教授行動がどう変化したか」を明らかにしながら、授業研究を行い、生徒がわくわくする授業コンテンツとしてまとめる。

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒全員の好子の数と傾向が明らかになった。またその内容についても、感覚刺激や食べ物など生得的な性質のものと人との関わりのような社会性の高いものがあることがわかった。分析結果は校内研修で共通理解をした。</li> <li>・ポスター形式の事例研究は3名が行った。また研究部が設定した日程に沿って各授業グループの教科担任（TIとなっている授業について、のべ9名）が代表的な授業の略案を事例としてあげ、その中で改善の指標について記載した。改善の傾向については研究部を中心に分析中である。</li> <li>・中学部の自立活動について「わくわくする授業づくり」の4年分をまとめ、成果と課題について公開授業研究会でポスター発表した。</li> </ul>								
評価指標の達成度及び成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好子査定ミーティングにより、生徒個人の好子及び学部全体の傾向について実態を明らかにし、引き継ぎができる資料にまとめることができた。自立活動に関して、グループ分けや各グループの指導内容について4年間の成果をまとめ、一定の方式としてまとめることができた。</li> <li>・いくつかの授業コンテンツが明らかになったが、自立活動の指導方式を核としてして各教科等に展開する在り方については明らかにできなかった。</li> </ul>								
総合評価 (○で囲む)	<table style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">A</td> <td style="width: 25%;">(B)</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>70～79%</td> <td>50～69%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	(B)	C	D	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
A	(B)	C	D						
80%以上	70～79%	50～69%	49%以下						
評価根拠	①については、当初の目標を達成したと判断した。②については、各教科等の指導力向上の検討が不十分であった。								
次年度の課題	「わくわくする授業づくり」の4年間の研究、研修を通じて、自立活動に関してすなわち生徒の学習上、生活上の困難さに応じる指導について、中学部方式といえる指導体制が構築できた。この体制を核にしながらか各教科等やそれを合わせた指導において展開していく運用の仕方を検討する必要が課題として残された。								

## 平成25年度学校評価シート

学部・部	高等部
重点課題	校内研究と連携して、教員の授業力の向上を図る。
重点目標	①わくわくする授業づくりに向けて、生徒の好子の査定を実施する。 ②好子の査定に基づき授業を実施し、学部授業研究会を行う。

達成の 具体的な評価指標	①高等部生徒全員の好子の査定を実施する。全員の一覧表ができる。 ②高等部内研究授業を一人1回は実施して授業研究会を行う。授業反省会における授業評価で8割以上の教員から優良可のうち良の評価がでる。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	1 7月下旬までに、高等部全生徒24名について、好子の査定を実施し、一覧表にまとめ、授業づくりに役立てる。高等部は縦割りグループでの授業が多いため、どの教員もどこかで同じ生徒の授業を持っていることが多いため、一人一人の生徒についての好子の査定は、学部全教員が意見を出し合って検討する。 2 9月より、月1名～2名の計画で学部研究授業を実施して、授業研究会を行う。そこで、好子の査定についての評価と改善ができる。また、授業の評価と改善について学部の教員間で検討する。

実施状況	<p>7月下旬、高等部生徒全員の好子の査定が完了し、全員の一覧表が完成した。好子一覧表を参考にしながら、指導案を作成した。特に、展開の部分において、学習活動そのものに好子を利用したり、評価において好子を利用したり、また、動機付けに利用するなど、とにかく望ましい学習活動を引き出すために、有効利用ができるように工夫して指導案に盛り込むようにした。</p> <p>9月以降、高等部の各教員が、自分が担当している授業すべてについて、平素の授業指導案に、好子を生かすべく配慮した授業展開になるように、修正・改善を加えて、授業実践を行った。さらに、授業研究会を実施し、みんなが意見を出し合って反省・改善をした。</p>			
評価指標の達成度 及び 成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部生徒全員の好子の査定が完了し、全員の一覧表が完成した。</li> <li>・各教員が自分の担当する授業について、好子を利用した指導案に修正改善し、授業を実践した。好子の使用度について、記録をした。</li> <li>・代表の教員の授業について、授業研究会を実施した。高等部で授業参観と反省会を実施して、好子の利用度について、利用度とその効果などについて議論した。授業力の向上につながった。</li> </ul>			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標であった全員の好子一覧表が完成した。</li> <li>・好子の査定に基づき、各教員が授業を実施した。</li> <li>・学部授業研究会を実施し、授業力向上に向けて議論できた。</li> </ul>			
次年度の 課題	各教員が実施している改善授業について、実践を継続するとともに、好子利用の効果について、検証していかなければならない。			

# 平成25年度学校評価シート

学部・部	教務部
重点課題	「わくわく」する授業づくり～学習履歴のチェック～
重点目標	①夏季・冬季休業中に個別の指導計画の学習履歴欄の入力を全校統一して行うことで、個別の指導計画を意識した指導を行うことを徹底する。

達成の 具体的な評価指標	<p>①-1 授業担当者が前期、後期、年間の指導計画を作成する。</p> <p>②-2 教務部が学習履歴の記入〆切日を設定し、各学部ごとにアナウンスを行い周知する。</p> <p>③-3 授業担当者が学習履歴を記入する。</p> <p>④-4 半期ごとに教務部で点検を行い、進捗状況についてまとめる。</p> <p>⑤-5 学年末に学習内容の履修の傾向を分析、報告し、次年度の目標設定を行う。</p>
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<p>個別の指導計画に学習履歴欄を設け、実施内容を記載する。 進捗状況の把握や実施報告を取り入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 前期、後期、年間の指導計画を作成する。</li> <li>2 学習履歴の記入〆切日を設定し、各学部ごとにアナウンスを行う。</li> <li>3 授業担当者が学習履歴を記入する。</li> <li>4 夏季・冬季休業中に教務部が点検を行う。</li> <li>5 3月に分析を行う。(学習内容の設定における過不足がなかったかどうか)それを基に次年度の計画の枠組みを提案する。</li> </ol>

実施状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童生徒全員に個別の指導計画を作成した。</li> <li>2, 3 学部ごとに〆切日の周知を行い、授業担当者が学習履歴の指導を行った。(前期は夏季休業期間中の8月9日、後期は冬季休業期間中の1月7日に〆切日を設定した。)</li> <li>4 各学部ごと進捗状況について点検を行った。</li> <li>5 今後、学習内容の履修の傾向を分析・検討し、次年度の目標設定を行う。</li> </ol>								
評価指標の達成度 及び 成果	学習履歴の記入〆切日設けることで、それぞれの教員が個別の指導計画を意識することができた。学習内容の設定における過不足などがないかどうかあわせて確認することができた。								
総合評価 (○で囲む)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">(A)</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">B</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">C</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">80%以上</td> <td style="text-align: center;">70～79%</td> <td style="text-align: center;">50～69%</td> <td style="text-align: center;">49%以下</td> </tr> </table>	(A)	B	C	D	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
(A)	B	C	D						
80%以上	70～79%	50～69%	49%以下						
評価根拠	授業担当者が記入〆切日までに学習履歴の内容を記入し、学部ごとに担当者(教務部員)が進捗状況を確認することができた。								
次年度の 課題	学習履歴の〆切日を各学期の途中に設けることで、学習内容の過不足がないよう意識することができた。教員が個別の指導計画を意識して指導に取り組むという意識を高められるよう、今後教務部で検討し、次年度に向けて改善点をふまえた上で継続して取り組んでいきたい。								

# 平成25年度学校評価シート

学部・部	教務部
重点課題	「わくわく」する授業づくり～教育実習を通した学生の学びの向上～ 教員養成における連携は大学が本校に要請する重点施策の一つである。大学附属校として、実地教育は教務部にとって重要な業務である。大学側の意向を踏まえた教育実習のあり方について検討をしていく必要がある。教員の指導力向上とともに、学生の学びの向上についても具体的に把握し評価していく必要がある。
重点目標	① 教育実習生の「自己評価シート」の運用，検討を通して，学生の学びが向上したかどうかを抽出する。

達成の具体的な評価指標	①-1 教育実習生用の「自己評価シート」を作成する。（「自己評価シート」はアンケート形式とし，理解が深まるにつれて高得点となるようにする。） ②-2 教育実習が始まる前に学生に「自己評価シート」を記入してもらう。 ③-3 教育実習の最終日に学生に「自己評価シート」を記入してもらう。 ④-4 「自己評価シート」の合計点が実習前と実習後を比較して，実習後に向上した学生が80%以上で達成とする。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	1 教育実習生用の「自己評価シート」を作成する。 2 教育実習が始まる前に学生に「自己評価シート」を記入してもらい，実習前の自己評価を行う。 3 教育実習の最終日に学生に「自己評価シート」を記入してもらい，実習後の自己評価を行う。 4 実習前と実習後の「自己評価シート」を比較・検討し，学生の学びや特別支援教育に対する専門性が向上したかどうかを検討する。

実施状況	1 昨年度作成した「自己評価シート」の項目等を教務部内で再検討し，修正を加え作成した。 2, 3 教育実習事前指導と教育実習が終了した時点で実習生に「自己評価シート」を記入してもらった。 4 「自己評価シート」を集計し，教務部内で検討した。			
評価指標の達成度及び成果	昨年度使用した「自己評価シート」の内容を検討したことで，実習生にとって項目が理解しやすくなった。4段階で評価してもらうことで，実習前後で何を学び，何が課題として残ったのかを明確にすることができた。			
総合評価 (○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	「自己評価シート」を作成し，教育実習の前後に実習生に記入してもらったことで，実習生が何を学び，どのようなことを実習を通して得たのかを把握することができた。			
次年度の課題	自己評価であるため学生によっては「自己評価」と「教員からの評価」がかけ離れているケースが見られた。自己評価なので個々の実習生が実習を通して何を学んだかを知るという目的で，次年度も継続して行いたい。実習生が記入しやすいよう，内容を検討して改善を行いたい。			



# 平成25年度学校評価シート

学部・部	研究部
重点課題	教育・研究機関と連携した教育研究により、教員の授業力向上を図る。「わくわくする授業づくり」
重点目標	前研究の2年間の継続を前提とした。 ①「わくわくシート」の項目に該当する具体的な授業改善プランを作成する。 ②特別経費（プロジェクト）と連携し、実践力を高める。

達成の 具体的な評価指標	本研究は2年計画であるため、1年次である本年度の指標は次のとおり ①校内に在籍する全児童生徒を対象とした適切な行動が生起し、維持できるような大人側からの物事の提供、かかわりに関する一覧並びに分析結果をまとめることができたか。 ②前項の実態把握に基づき、各学部毎の授業研究並びに学校全体の授業研究会を合計7回以上実施し、教員間の検討を通じて授業研究の手続きについて定めることができたか。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	5～6月：校内全児童生徒を対象とした目標行動や標的行動の獲得を高めるための働きかけやご褒美の提示の一覧作成 7～8月：前項に基づいた学部別の実態把握の分析 9月：前項に基づいた研究部による実態把握の総合的な分析 10～2月：集団指導場面における授業改善プランの協議と試行的な授業実践 3月：まとめと平成26年度の研究計画立案

実施状況	1 実施計画の通り一覧並びに分析を全学部で実施できた。また、1単位時間の学習パターンの傾向を全校的にとりまとめ、分析することができた。 2 年間行事計画に位置づけた授業研究の日程を変更し、各学部1回計3回の全体授業研究会を開催するとともに、学部単位での管理職による指導を交えた授業研究を小学部3回、高等部1回実施した。以上合計7回の実施ができた。			
評価指標の達成度 及び 成果	・教授行為は、指導者（教員）と学習者（児童生徒）との相互関係によって成立するものであり、適切な教授行為を行うために、学習しやすい環境設定や指導手続き、妥当性の高い学習目標、児童生徒の意欲や動機付け、成果がわかるフィードバックを整える必要がある。そこで、全児童生徒60名を対象とした個々の成果がわかるフィードバックの一覧を作成し、その傾向について分析することができた。 ・学校研究及び公開授業研究会との関連から、知的障害特別支援学校で実施している「教科別の指導」、「領域別の指導」、「各教科等を合わせた指導」について、各1回ずつ全体授業研究を実施できた。授業者との授業検討の他、教育課程に関する情報交換や検討を実施することができた。また、学部別の授業検討では、全体授業研究や公開授業研究会と関連づけた検討を管理職指導の下実施することができた。但し、年間行事計画通りには運用できず、予定変更を行わざるを得ず、計画的な運営とは言えなかった。			
総合評価 (○で囲む)	A	(B)	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	1 教員間の学校研究に対する共通理解に格差があること 2 年間行事計画通りの学部、学校全体の授業研究手続きに不備があること			
次年度の 課題	これまで本校の学校研究では児童生徒への指導手続きや環境設定といった指導方法を中心に据えた取組が重きをなしてきた。これには、児童生徒の有する知的発達水準や障害属性に伴う様々な学習上・生活上の困難さを適切に実態把握し適切な指導を行うことの質を高めることが目的であった。これには、学習指導要領に示された教育課程や学習内容が適切に編成・運用されていることが大前提となっている。しかし、このたびの授業研究をとおして、教員の理解度、教育課程の妥当性の検討が必要であると認識されたため、次年度以降は、教育課程・教育内容に関する見直しを全校的に行うことが必要と考える。学校研究としては、こうした方向性に基づいて、教育内容に関する取組を実施することとしたい。			

# 平成25年度学校評価シート

学部・部	支援・進路部
重点課題	「わくわくする授業作り」を実現する校内行事の取組（2年次）
重点目標	①「わくわく」の要素を取り入れた学校行事計画を起案する。

達成の 具体的な評価指標	<p>①-1 各行事（2大行事）の目的に「わくわく」の要素を含んだ具体的な文言を組み込む。</p> <p>①-2 全教員に周知し、各学部内において内容の検討と実施を行う。</p> <p>①-3 保護者会に対して必要に応じた協力を要請する。</p> <p>①-4 実施アンケート中「よい」以上の評価が70%で達成とする。</p>
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<p>4月 運動会（5月実施）計画    11月 学校祭（12月実施）計画</p> <p>1 支援・進路部内で各行事における目的を検討する。 その際、学習指導要領「特別活動」の目的を参照し、本校の重点目標「わくわく」を盛り込む。</p> <p>2 実施計画書をポータルサイト上で随時更新、および職員会にて全教員に周知を行う。</p> <p>3 保護者会への説明と同意を得た上で、協力を要請する。</p>

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月・11月 支援・進路部内において学校行事の目的を検討した。学習指導要領「特別活動」の目的を参照し、「わくわく」の要素を盛り込んだ内容を検討した。</li> <li>・実施計画を職員会で周知した。ポータルサイト上にアップし、変更点は随時アップし、周知を行った。</li> <li>・学部へ周知するとともに学部内で内容の検討を要請し、実施した。</li> <li>・保護者へ行事の目的を説明し、保護者会活動への参加協力を要請した。 *折衝は管理職に行ってもらった。</li> <li>・教員、保護者アンケート（4段階評価）を実施した。</li> </ul>			
評価指標の達成度 及び 成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妥当性のある行事の目的を策定できた。</li> <li>・学部内で目的に沿った内容の検討、実施ができた。</li> <li>・職員会やポータルサイトでの周知が適切なタイミングでできた。</li> <li>・保護者会との連携が適切にでき、協力を得ることができた。</li> <li>・アンケート結果で2行事とも「よい」の評価を90%以上達成することができた。</li> </ul>			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部内での事後反省による評価により判断できる。</li> <li>・教員・保護者アンケートの達成度により判断できる。</li> <li>・支援・進路部内での協議・反省により判断できる。</li> </ul>			
次年度の 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早い段階からの計画立案。</li> <li>・安全・健康面に配慮した行事内容の検討。（運動会競技・学校祭での生徒販売場所確保など）</li> <li>・外部団体との折衝窓口の一元化。</li> </ul>			

# 平成25年度学校評価シート

学部・部	地域支援部
重点課題	わくわくする授業づくり～校内リソースと地域支援部情報の校内への発信～
重点目標	①校内からは授業や支援に関するアイデアや各学部と発達支援センターの取り組みなど、また、校外からは教育相談活動や研修会で得た情報を教員に紹介し、共有する。

達成の 具体的な評価指標	<p>【掲示内容の希望アンケートの実施】</p> <p>①-1 掲示して欲しい情報について、全教員にアンケートを実施する。集計結果に基づき、内容を選定する。</p> <p>【提供した情報についての有益感調査】</p> <p>①-2 掲示した情報の有益感をマグネットを貼ることで示してもらおう。2ヶ月ごとにマグネットの個数を集計する。</p>
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<p>1 掲示して欲しい情報について、全教員にアンケートを実施する。5月</p> <p>2 地域支援部員がインタビュー記録や写真で情報を収集する。5～3月 〈校内〉各学部、発達支援センターの取り組み、授業や支援のアイデアなど 〈校外〉コーディネーター研修、巡回相談員研修などで得た情報、教育相談活動で得た情報、関係書籍情報など</p> <p>3 本校教員の大多数が目にする場所に掲示する。5～3月 職員室後方のホワイトボードの活用。2ヶ月に1回程度で更新する。</p> <p>4 評価を確認する。7～3月 評価の具体的な指標として、「いいね」マグネットを使う。有益で実践に活かせる情報であると判断した教員にマグネットを貼ってもらおう。</p>

実施状況	全教員対象に校内リソース掲示版で取り上げてほしい内容についてアンケートを実施した。掲示した内容は、発達支援センターの紹介、夏季公開研修の実施報告、進路情報であった。職員室後方のホワイトボードに掲示した。見た人からの評価は、「いいね」の意思を示す円いマグネットを貼ってもらった。			
評価指標の達成度 及び 成果	校内リソース掲示版で取り上げてほしい内容についてのアンケート（複数回答）は15名から回答を得た。教材教具の紹介（8名）、進路に関する情報（7名）、発達支援センターの取り組み（5名）を取り上げて欲しい人が多かった。教材教具の紹介については、夏季公開研修で実施した小学部教材づくりワークショップの資料を掲示した。発達支援センターの取り組み、進路情報は、担当者の協力により情報を提供することができた。掲示内容は、2、3ヶ月に1回のペースで更新した。「いいね」マグネットの数は、発達支援センターの紹介（11個）、夏季公開研修の実施報告（15個）、進路情報（掲示中）であった。			
総合評価 (○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	アンケートを実施し、その結果に基づいて、掲示内容を検討した。ホワイトボードにプレゼンテーション資料を掲示し、マグネットの数をもとに、掲示した資料の有益感を調べることができた。			
次年度の 課題	全ての教員が目にする位置にあるホワイトボードを校内リソース掲示版として使うことは、情報を周知し、共有するために有用であると考えられる。今後も、全教員対象にアンケートを実施し、提供して欲しい情報を調べる。そして、その結果をもとに校内リソース掲示版の運用について検討する必要がある。また、ニーズとは別に、校外での支援活動について認知度を上げていくために掲示版を活用することも考えられる。			

## 平成25年度学校評価シート

学部・部	総務部
重点課題	わくわくする授業のための環境づくり
重点目標	①図書や視聴覚教材の充実等の環境を設定し、わくわくした授業づくりのための環境づくりを目指す。

達成の 具体的な評価指標	①図書の充実や視聴覚教材の作成・管理場所を設定するなど、一人一人の児童生徒に応じた教具教材を準備できる環境を整える。 図書室の蔵書を50冊以上増やす。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	1 図書館の運営計画等を作成し、図書の充実を図る。(8月までに計画、9月から実施) 2 視聴覚機器及び情報機器等を充実することにより、視聴覚教材等の制作を支援する。(ICTサポーターとの連携：9月から本格的に実施)

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在図書の蔵書は83冊増えた。</li> <li>・ 図書室の蔵書を貸し出せるようにするため、貸し出し簿の作成や図書の分類をしている途中である。</li> <li>・ 3月中には図書の分類を終了し、貸し出しができる状態にする。</li> <li>・ ICTサポーターと連携し、パワーポイントの使用研修を行ったり、情報メディアの研修会を実施した。</li> <li>・ 情報機器としては、平成27年度からiPad13台の導入及びデスクトップパソコン8台が導入できる状態にできた。</li> </ul>			
評価指標の達成度 及び 成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蔵書が増えたことにより、図書室の利用回数が前年比較で(概ね)1.5倍になった。</li> <li>・ 図書室の本の使われ方を見ていると、読書をしている回数や様子も以前より増えたと感じられる。</li> <li>・ 毎週月曜日に来校してくれている、ICTサポーターと連携し、今後よりいっそう情報機器活用の研修会を開き活用が促進されると期待できる。</li> </ul>			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書室の利用率</li> <li>・ 情報機器の増加数及び設置状況</li> <li>・ 研修会の実施</li> </ul>			
次年度の 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書貸し出しの推進</li> <li>・ 図書室の利用の仕方及び管理方法を徹底する。</li> <li>・ 情報機器の管理の仕方と使用についての研修会開催の実施</li> <li>・ 本校の情報担当者の数を増やす。</li> </ul>			

## 平成25年度学校評価シート

学部・部	小学部
重点課題	保護者との連携強化を図る
重点目標	①小学部教育課程，教育内容に関するの情報公開を行い保護者との連携を図る。必要に応じて，外部機関(福祉・医療)との連携を図る。

達成の 具体的な評価指標	①-1 学部懇談会の実施回数を4回以上。 ①-2 外部との連携を行った児童の保護者アンケートで「やや満足」以上が80%以上。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	1 小学部の教育課程，教育内容に関するの情報提供の場としての学部懇談会を年間4回以上実施する。 2 研究のあらましについて，学部懇談会でスライドを使用して進捗状況を伝える。 3 学部通信を月2回程度発行し，小学部での教育活動について定期的に知らせる。 4 保護者面談等を通じて外部機関との連携が必要な家庭については福祉・医療との連携を図っていく。

実施状況	1 小学部の保護者に対して4月19日，9月26日，11月13日，2月13日に実施することができた。 2 学部懇談会の際に，PowerPointと動画を活用し研究活動及び授業の様子について伝えることができた。 3 学部通信を平均して月2回以上発行することができた。 4 外部機関との連携が必要な児童については適宜，相談にのり，各機関と連携を進めていくことができた。			
評価指標の達成度 及び 成果	1及び2の項目についての評価指標を達成することができた。4回の学部懇談，年間25回程度(予定)の学部通信の発行の中で写真を多めに掲載するなどして，小学部の学習活動及び研究活動を保護者に伝えることができた。また，学部懇談の際には授業の様子を動画で公開することにより様々な授業での子どもたちの姿を伝えることができた。			
総合評価 (○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	評価指標1及び2の項目を達成したため。A評価とした。			
次年度の 課題	小学部における授業内容及び研究内容，さらには教育課程やそれらの目的等についても説明し継続的に情報発信を続けていく。また小学部の現状についても適宜情報発信を行い，学部として実施可能な行事や学習活動等についても理解を得られるよう発信していく。			

# 平成 25 年度学校評価シート

学部・部	中学部
重点課題	保護者との連携強化
重点目標	①「わくわくする授業づくり」を軸に、保護者に対して、中学部の教育に関する情報公開をすすめ、連携・協働関係を深める。

達成の 具体的な評価指標	<p>①-1 中学部の教育に関して、保護者に伝えたり質疑応答したりする学部懇談会を年3回以上設定し、保護者の意見、感想を聴取する。</p> <p>②-2 保護者の学校評価において、学部の項目がB評価以上になる。</p>
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<p>1 中学部の教育課程、教育内容、進路学習の成果と課題をテーマとして年3回の学部懇談を持つ。昨年度の要望を反映し、進路関係の情報提供を増やす。時期は、別途計画する。</p> <p>2 「わくわくする授業づくり」で、生徒の行動、教員の指導力がどう変化したかを具体的な事例を元に保護者に知らせる。家庭と共通理解のもと、学校での指導がすすめられるよう、事例のポイントを分かりやすい言葉で紹介しながら行う。</p> <p>3 指導・支援の結果について評価をもらう。運動会、学校祭、就業体験等の各時期において、指導・支援の趣旨説明を徹底する。保護者による評価は、学校評価で一括して実施する。</p>

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学部の教育について、進路の状況と就業体験について、わくわくする授業づくりについて、計3回の学部懇談を実施。また JCI テレワークズ代表及び在籍する本校の卒業生による講演（高等部と共催）を実施した。</li> <li>・ 公開授業研究会のポスター発表と関連づけてスライドを作成し、説明をした。手がかりを出して行動を導き、適切な結果を出させたりほめたりするまでが学習であり、そのために工夫している点を平易な言葉に置き換えて知らせた。</li> <li>・ 学校評価アンケートでは、18名中17名より回答を得た。</li> </ul>			
評価指標の達成度 及び成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学部懇談会は年3回設定できた。進路関係の保護者懇談を2回と講演を実施でき、情報提供の機会を増やすことができた。</li> <li>・ 学校評価アンケートにおいて「わくわく」というキーワードに関連して「できているか」「適切であるか」等をたずねた項目では、15～16名（83%以上）から「あてはまる」または「ややあてはまる」との回答を得た。</li> </ul>			
総合評価 (○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	平成24年度の反省で保護者の要望が多かった進路についての情報提供を増やすことができた。また学校評価アンケートにおいて保護者の80%以上から「ややあてはまる」以上の評価を得たことから上記の評価とした。			
次年度の 課題	<p>中学部段階で就業体験を行っている利点を生かしながら実施時期、日数等、また作業学習とのつながりを検討するとともにそれを軸として保護者との連携をさらに進めていく必要がある。</p> <p>学校評価では日常の授業の展開について「生徒が喜んでいる、わかりやすい」という評価が多かった反面、学校行事における展開についてやや低い評価がみられた。参加者数が多かったり、活動が複雑になったりする行事等で生徒が安心して参加できる手立ての検討がさらに必要である。</p>			

## 平成25年度学校評価シート

学部・部	高等部
重点課題	保護者との連携強化を図る。
重点目標	①保護者参観日や学部行事等を利用し、「学部懇談会」を実施する中で、高等部の教育全般及び進路指導・就業体験における諸問題の解決を図りながら互いの連携・協働関係を深める。

達成の 具体的な評価指標	<p>①-1 学部懇談会を年4回以上設定し、学部の教育及び学校教育、学校行事等の説明及び質疑応答をする中で、保護者と学部間の連携・協働関係を深める。また、保護者間の共通理解を深める。</p> <p>①-2 年度末における保護者の学校評価の中で、学部に関する評価が3以上になる。</p>
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<p>1 7月、10月、1月、3月において学部懇談会を設定し、高等部の教育課程、わくわくする授業の成果と課題、進路指導と就業体験、将来の生活、クラス運営、学校行事のあり方などについて、説明と質疑応答をする中で、保護者の心情やニーズの理解に努める</p> <p>2 就業体験や学部行事などの後、それから年度末には保護者アンケートを実施し、本音の意見やニーズを調査・検討し、次の学部懇談会での議題の一つにして、課題を解決したり共通理解をしたりする。2月には年間総括アンケートを実施し、来年度に引き継ぐ課題を検討する。</p>

実施状況	<p>1 学部懇談会は、7月と3月に実施した。10月は行事日程調整がつかず実施できなかった。1月は中学部との合同保護者研修会として開催実施した。年度末アンケートを配布予定である。高等部は、進路関係での懇談が多くあるため、進路指導に関する質問やご意見は、その懇談で伺うことができた。</p> <p>2 行事ごとのアンケートについては、学校からのアンケートや、各担当部署からのアンケートと重なることもあり、差し控えた。</p>			
評価指標の達成度 及び 成果	<p>1 年間4回の学部懇談会実施予定は、2回実施になった。しかし、学級懇談などからの話を聞くと、高等部の行事関係や、学習体制、就業体験について、おおむね納得して頂いていることが伺えた。</p> <p>2 保護者の学校評価からみると、高等部の教育に関する満足度は、Aであった。</p>			
総合評価 (○で囲む)	A	○ B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<p>1 行事関係での指導計画体制にやや不満的なご意見を伺うことがあった。</p> <p>2 実質的には、学部懇談を予定の4回実施ができなかった。</p> <p>3 保護者の評価がAであった。</p>			
次年度の 課題	<p>1 保護者懇談会を、年間行事計画の段階で位置づける。保護者への周知徹底も含めて、4月の総会時に伝えておく。</p> <p>2 保護者のご意見、ご提案については、直後の学部会等で対策案、改善案を検討しておく。そして、次の懇談会で報告をするようにする。</p>			

## 平成25年度学校評価シート

学部・部	総務部
重点課題	保護者との連携強化
重点目標	①学校だよりやホームページ等により，本校の情報提供を行う。

達成の 具体的な評価指標	①年間2回の学校だより，月1回のホームページ更新等，学校の情報提供を行う。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	1 各校務部が必要と思われるとき以外に，毎月1回，企画会議時にホームページの訂正場所を確認する。

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間4回の学校だよりを発刊できた。</li> <li>・月1回ホームページの更新の連絡を行った。</li> <li>不定期的な更新については，各部署に確認し，更新や訂正を行った。</li> </ul>			
評価指標の達成度 及び 成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だよりの発刊が遅れることもあったが，2学期制に伴う発刊時期の再確認のきっかけとなり，今後の資料となった。発刊回数はクリアできている。</li> <li>・ホームページの更新及び訂正は，支障なくできた。</li> <li>ホームページ上のタグの整理について，本校教員より指摘があり，見やすい形に変更できた。</li> </ul>			
総合評価 (○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	達成度100%以上			
次年度の 課題	<p>①保護者文化部の広報だよりとの関係を明確にする。 「夏休み号」と「前期終了号」の意味合いから考察し，発刊時期を考える。</p> <p>②今後のためには，「ホームページの管理」「PCの管理」「サーバー及び大学情報チームとの連絡調整」等，役割分担することにより負担の軽減だけでなく管理体制が整い，「わくわくする授業のための環境づくり」や「学校の情報提供」が実施できると考えられる。</p>			



## 平成25年度学校評価シート

学部・部	管理職員
重点課題	保護者との連携強化
重点目標	① 6つの活動部について、保護者会活動が活性化するように、保護者との連携を深める。

達成の 具体的な評価指標	<p>①-1 保護者会活動部について、アンケート設問「計画に応じて適切な活動ができた」に対して「4（そう思う）・3（ややそう思う）」の合計が70%を超える。</p> <p>②各活動部が年間2回以上の具体的活動と活動部会を行う。</p>
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<p>1 各部の活動に関して、計画運営の支援を行う。</p> <p>2 各部の活動に関して、保護者が主体的に活動ができるように、活動内容の連絡相談を行う。</p> <p>3 各部の活動に関して、必要に応じて活動に参加する。</p>

実施状況	<p>計画どおり実施した。それぞれの活動部の活動について計画運営の支援他、できる限り管理職員が活動に参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化・家庭教育部 「給食試食会」の実施 「保護者研修会」の実施</li> <li>・広報部 保護者だよりの発行（2回）</li> <li>・体育部 救命救急研修会 運動会保護者種目の運営補助他</li> <li>・進路部 保護者研修会の実施 施設見学の実施</li> <li>・交通安全部 児童生徒の安全確保について依頼 公開授業研究会の際の交通安全</li> <li>・環境部 保護者全員に呼びかけた学校祭前の清掃活動、 リサイクル活動他</li> </ul>			
評価指標の達成度 及び 成果	<p>①各活動部が年間2回以上の具体的な活動を実施した。</p> <p>②各活動部が年間2回以上の部会を実施した。</p> <p>③「保護者のニーズに沿った研修会や施設見学ができていますか」の設問に対して、86%があてはまる、ややあてはまると回答した。</p> <p>活動部ができて2年目となり、新しい活動を加えた部もあった。アンケートで活動内容を決めて実施し、実施後もアンケートを行う等、保護者のニーズに沿った運営を心がけているように感じた。</p>			
総合評価 (○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各活動部の活動実績（年間2回以上の活動・部会）</li> <li>・学校評価アンケート(Q17)</li> </ul>			
次年度の 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動支援のニーズをリサーチし、ニーズに沿った支援を行う。</li> <li>・保護者との連携を深めるために、学校側の支援体制づくりを検討する。</li> </ul>			

## 平成 2 5 年度学校評価シート

学部・部	支援・進路部
重点課題	危機管理対策の充実を図る
重点目標	①近年の大震災の教訓を活かした最新の安全教育計画を作成する。 ②安全教育計画に基づいた実践的な避難訓練等を計画・実施する。

達成の 具体的な評価指標	①最新の防災情報に関する情報を収集し、本校の実態に即した安全教育に関する年間計画を作成する。 ②-1 必要な訓練や研修を計画・実施する。 ②-2 実施アンケート中「よい」以上の評価が 70 %で達成とする。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	1 国や県、周辺諸学校、地域の防災情報を収集する。 2 本校の実態に即した『安全管理対策』『消防計画』『防災マニュアル』を作成する。 3 安全教育に関する年間計画に基づき訓練等を実施する。 特に地震津波避難訓練については大規模な震発生時を想定した、避難訓練を計画し実施する。 4 総務課との協働で『大地震発生の防災マニュアル』の運用を進める。

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徳島市、他県附属支援学校から防災に関する情報収集を行った。</li> <li>・総務課と『安全管理計画』の作成について協議した。</li> <li>・『大地震発生の防災マニュアル』を作成した。</li> <li>・平成 2 5 年度年間計画を立案、実施した。</li> <li>・年間計画にのっとり訓練等を実施した。</li> <li>    * 地震津波避難訓練は内容を変更して実施した。</li> <li>・教員アンケート（4段階評価）を実施した。</li> </ul>			
評価指標の達成度 及び 成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画にのっとり避難訓練を実施した。</li> <li>・大規模な地震津波を想定した避難訓練は未実施。</li> <li>・最新の防災情報の収集は不十分であった。</li> <li>・アンケートでは「よい」以上の評価が 90 %以上達成した。</li> </ul>			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70 ~ 79%	50 ~ 69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援進路部内での検討結果により判断できる。</li> <li>・教員アンケートにより判断できる。</li> </ul>			
次年度の 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の防災情報を情報収集する。防災情報元を一元化する。</li> <li>・『安全管理計画』『大地震発生の防災マニュアル』の周知と活用。</li> <li>・大地震（津波）発生時を想定した、大規模な避難訓練の計画と実施。</li> </ul>			

# 平成25年度学校評価シート

学部・部	地域支援部
重点課題	特別支援教育のセンター的機能の強化を図る
重点目標	①発達支援センターと連携し、特別支援学校のセンター的機能を発揮していく上で、地域の関係機関から求められている分野や支援内容を校内外の保育士、教職員等を対象にした調査を実施し、今後の研修計画や地域支援部の活動内容の方向性を見いだす。

達成の具体的な評価指標	<p>【アンケート調査】</p> <p>①-1 夏季公開研修の参加者から特別支援学校のセンター的機能に関するニーズをアンケートにより把握し、次年度の地域支援部の取組に活かす。</p> <p>【聞き取り調査】</p> <p>①-2 地域の保育園、幼稚園、小学校、中学校など（20件程度）から特別支援学校のセンター的機能に関するニーズを聞き取り、次年度の地域支援部の取組に活かす。</p>
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<p>1 夏季公開研修開催時にアンケートを実施する。 「特別支援学校のセンター的機能として求めるものは何か」について問う。 (1) アンケート項目の選定 6月 (2) アンケートの実施 7～8月 (3) アンケートの集計 9～10月 (4) アンケート結果からの考察 11～12月</p> <p>2 教育相談・研修会講師などで校外に出向いた際に「特別支援学校のセンター的機能」として求めるものは何かについて聞き取りをし、文章で記録したものをまとめる。</p>

実施状況	計画の①②について計画どおりに実施した。
------	----------------------

評価指標の達成度及び成果	<p>来年度希望する研修内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 授業・指導法について</li> <li>■ 教材・教具について</li> <li>■ 進路支援について</li> <li>■ 障害特性について</li> <li>■ 支援体制づくりについて</li> <li>■ 指導計画の作成と運用</li> <li>■ キャリア教育について</li> </ul>	<p>夏季公開研修では、のべ55名の参加者があった。4回の夏季公開研修全てで、「来年度希望する研修内容」と「附属特別支援学校にセンター的機能として求めること」のアンケートを実施した。夏季公開研修アンケート結果は、左に示すとおりである。希望する研修内容は、「授業・指導法について」「教材・教具について」が多かった。センター的機能として期待することは、「研修会の開催」が多く、次いで「教育相談」「講師派遣」が多かった。この結果と本校が提供できるリソースを照らし合わせ、次年度の夏季公開研修の内容を検討することができた。</p> <p>また、外部支援の際にアンケート（複数回答）の実施をし、50ヶ所から回答を得た。今後期待するセンター的機能として、全体結果50（100%）の内、幼児児童生徒への指導・支援に関する相談46（92%）が多く、次いで、保育士・教職員に対する相談・情報提供41（82%）、保育士・教職員等への研修協力41（82%）であった。記述式でなく、選択式のアンケートとなったが、本校のセンター的機能として進めていくべき、大まかな方向性を探ることができた。</p>
	<p>センター的機能として期待すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 研修会の開催</li> <li>■ 教育相談</li> <li>■ 講師派遣</li> <li>■ 教材・教具貸し出し</li> <li>■ 施設の提供</li> </ul>	

総合評価 (○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下

評価根拠	アンケート結果をもとに考察ができた。
------	--------------------

次年度の課題	今年度同様、アンケートや聞き取り調査を実施し、センター的機能のニーズ調査を行う。また、本校が提供できる研修会、派遣講師などリソースを一覧にし、まとめていく作業を進めていくこと、及び、教育相談や研修会講師として支援できる教員養成を行うことが必要である。
--------	---

# 平成25年度学校評価シート

学部・部 重点課題	発達支援センター 特別支援教育のセンター的機能の強化を図る
重点目標	<p>①鳴門教育大学附属特別支援学校が中心となり、鳴門教育大学や徳島市と連携・協力し、「特別な教育的支援を必要とする幼児・児童生徒のための支援推進プログラム」を実践する。その成果物を、本学附属学校園並びに徳島市内公立の幼・小・中学校の教職員に提供することにより、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に対する展望と専門性を持った個別の支援や指導の効果を高める。</p> <p>②「発達の気になる就学前の幼児への支援プログラム」を実践することにより、現在必要性がクローズアップされている発達の困難や遅れのある幼児の早期発見・適時介入の一部分に関わることで、校内外の保育・教育・療育担当者へのリソース提供を通じて、専門性向上への援助並びに地域への支援システムの効果的な一方法を提案する。</p>

達成の 具体的な評価指標	<p>①-1「研修協力機能」に焦点を当てた「個別の教育支援計画の作成と活用」、「個別の指導計画の作成と活用」を実施し、研修並びに支援に対して80%以上の充足度を得ることができたか？</p> <p>①-2「指導・支援機能」、「情報提供機能」に焦点を当て、附属学校園並びに徳島市内の公立保育所・幼稚園、小中学校への支援を実施し、問題改善の充足度として70%の充足度を得ることができたか？</p> <p>②-1「すぎのこプログラム」への協力幼児とその保護者、保育担当者に対してそれぞれのニーズに応じた支援プログラムの実施ができたか？</p> <p>②-2「すぎのこプログラム」に関する参観・研修提供を通じて、校内外の保育士・教員、療育担当者に対して、一定の充足度を得ることができたか。</p>
-----------------	---

実施計画 (手だて・スケジュール等)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">月</th> <th style="width: 20%;">プロジェクト運営</th> <th style="width: 30%;">事業1</th> <th style="width: 30%;">事業2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>本年度の計画確認</td> <td></td> <td>協力者との打合せ</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>関係機関との打合せ</td> <td>関係機関との打合せ</td> <td>第1期セッション</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>第1回 推進委員会</td> <td>※研修協力機能</td> <td>※慶応研修</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td></td> <td>7～8月「夏季公開研修」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td></td> <td>※指導・支援機能</td> <td>※慶応研修</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td></td> <td>保育・教育相談</td> <td style="text-align: center;">↓</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>第2回 推進委員会</td> <td>※情報提供機能</td> <td>第2期セッション</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td></td> <td>中学校区連絡会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td></td> <td>※充足度調査・まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">↓</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>第3回 推進委員会</td> <td></td> <td>まとめ</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">※参観・研修提供による充足度調査</p>	月	プロジェクト運営	事業1	事業2	4月	本年度の計画確認		協力者との打合せ	5月	関係機関との打合せ	関係機関との打合せ	第1期セッション	6月	第1回 推進委員会	※研修協力機能	※慶応研修	7月		7～8月「夏季公開研修」		8月		※指導・支援機能	※慶応研修	9月		保育・教育相談	↓	10月	第2回 推進委員会	※情報提供機能	第2期セッション	11月		中学校区連絡会		12月				1月		※充足度調査・まとめ		2月			↓	3月	第3回 推進委員会		まとめ
月	プロジェクト運営	事業1	事業2																																																		
4月	本年度の計画確認		協力者との打合せ																																																		
5月	関係機関との打合せ	関係機関との打合せ	第1期セッション																																																		
6月	第1回 推進委員会	※研修協力機能	※慶応研修																																																		
7月		7～8月「夏季公開研修」																																																			
8月		※指導・支援機能	※慶応研修																																																		
9月		保育・教育相談	↓																																																		
10月	第2回 推進委員会	※情報提供機能	第2期セッション																																																		
11月		中学校区連絡会																																																			
12月																																																					
1月		※充足度調査・まとめ																																																			
2月			↓																																																		
3月	第3回 推進委員会		まとめ																																																		

実施状況 評価指標の達成度 及び成果	<p>実施計画通りに実施できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県保育事業連合会と連携し、県下118名の保育士を対象とした研修会を3回実施した。研修充足度として参加者の99%から満足という評価を得た。徳島市公立保育所33カ所中23カ所に保育相談を実施。徳島市保育課より、発達支援センターに対して満足との評価を得ることができた。</li> <li>・発達支援センターが実施した保幼小中向けの相談支援を受け、96%の支援先から特別支援教育体制の構築に貢献したとの肯定的評価を得ることができた。また、連携先である徳島市教委、吉野川市教委、徳島市保育課等6機関から発達支援センターからの支援に満足という肯定的評価を得ることができた。</li> </ul>
--------------------------	--

総合評価 (○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	発達支援センターが実施した支援評価に対して満足と回答した割合が96%あったこと			
次年度の 課題	①②の事業の取組の結果、本校が今後展開するセンター的機能のパッケージを開発することができた。特に徳島市保育・教育行政との連携強化にも繋げることができ、次年度には本格的な運用を進めたいところである。しかし、同事業については大学プロジェクトとしての経費の下で実施したため、3月のプロジェクト期間終了後、本年度並の支援展開が難しいことが想定されるため、対象支援先を限定した取組を行いたい。			